

「諦めず前進し続ける」ことの大切さを学びました

第 11 期 久米 敬太郎

「厳しい環境に身を置いて、自分を少しでも成長させたい！」そう意気込んで私は、小野ゼミに入会した。そして、3年前期の役職決めの際、自分を少しでも成長させるため、私は、論文代表およびOB・OG会誌編集長の2つの役職を兼職するという決断をした。

決断当時の私は、小野ゼミで役職を全うすることの大変さをまだ十分に分かっておらず、2つの役職を自分の能力でしっかりと全うできるだろうと思っていた。しかし、そんな私の考えは甘かった。論文代表およびOB・OG会誌編集長としての私は、自分の能力不足のせいで、幾度となく先生や先輩や同期に迷惑をかけ、また、助けられてきた。そして、迷惑をかけたり、助けられたりする度に、私は、周囲に対する申し訳なさとともに、自分の能力不足を深く痛感していた。小野ゼミで過ごすそんな日々は、私にとっては厳しく、とても辛い日々であった。

しかし、幾度となく挫けそうになりながらも、諦めずに前進し続け、最終的にインゼミの論文やOB・OG会誌が完成できた時は、この上ない達成感を味わうことができた。また、インゼミ報告会で多くの方から称賛の声を頂いたり、インゼミの論文が商学会賞を受賞できたり、OB・OG会で会誌を楽しそうに読む多くの方々の姿を見たりして、自分がこれまでやってきたことが成果となって現れるようになると、とても嬉しかった。

この経験は私にとって大変貴重であった。中高時代の部活動では、目標の順位に届かなかったり、大学入試では、第一志望の大学に合格できなかつたりと、これまで励んできたことに対して挫折を味わってきた私は、「諦めずに前進し続ける」ことに、多少たりとも徒労感を抱いてきた。しかし、この経験を通じて私は、「諦めずに前進し続ける」ことが、成果に繋がる感覚を味わうことができた。そして、「諦めずに前進し続ける」ことの大切さを学ぶことができたと思う。

私は、小野ゼミに入会して、小野ゼミの活動に励んできて、心から良かったと思う。そして、自分以外のの方が適任なのではと思うことも多々あったが、役職を兼職するという選択は自分の成長に大きく繋がりが、正解だったと思う。小野ゼミでの経験は、これから先、社会人になる自分の人生の中で大きな経験になったのではないかと感じている。これから先、いかなる困難なことが起こっても、小野ゼミでの経験で学んだ「諦めずに前進し続ける」姿勢を持ち続けていきたいと心に誓うことができた。

末筆ながら、諦めずに一緒に活動してきた11期、親身になってアドバイスして下さった10期の先輩方や大学院生の方々、そしてなによりも2年間大変お世話になった小野先生に感謝してエッセイを締めくくりたいと思う。本当にありがとうございました。